

品川・大田、楽しく歩く1枚

区境超え観光地図

羽田国際化にらみ誘客

品川区と大田区の観光地やルートを1枚の地図に盛り込んだ「しながわ大田観光マップ」が完成した。来年10月の羽田空港・新滑走路オープンによる国際化をにらみ、連携して「おひざ元」に観光客を呼び込むのが狙いで、初めての試みだ。ボランティアのガイドが互いの区の観光地を案内できるように研修も始めた。

(小石勝朗)

「観光マップ」はA1判。

品川区なら旧東海道、しながわ水族館や戸越銀座、大田区なら池上本門寺、森海苔のふるさと館や桜坂といった観光地を地図に落としてある。裏面には、両区の観光地をそれぞれイラストで表したうえで、お勧めの観光ルートを紹介している。

地図を作ったのは、品川・大田地域観光まちづくり推進協議会。都と両区の支援で、

しながわ観光協会、大田観光協会などが3月に設けた。

「区外から来る人にとって区境は関係ない。楽しく街を歩ききっかけにしてもらい、地域活性化につなげたい」と、しながわ観光協会の小浅邦子・常任理事。大田観光協会の栗原洋三・事務局長も「羽田空港や品川駅との位置関係がわかれれば来てもらいやすくなる。両区民の交流の増加にもつなげたい」と話す。

データ収集やルート策定、編集作業の一部は両協会のメンバーが担当。10万部作り、

公共施設に置いたりイベントで配ったりしている。無料。「これまで両区を1枚にまとめて地図は見あたらず、便利だと好評」という。

協議会は今後、両区にまた

まみ食いウォークを開き、
ロント、荏原地区や大森地区などを想定。10月から始めた観光ガイドの研修には、両区の36人が参加している。

11月下旬には、協議会の主催で両区の商店街を巡る「つまみ食いウォーク」を開き、
がる観光ルートを設け、紹介していく計画だ。旧東海道や京浜運河沿いのウォーターフロント、荏原地区や大森地区などによる外国人客の増加を意識し、英語の説明も入れる

約4千人が武藏小山、大岡山地区などを試食用の食べ物をつまみながら歩いた。

上観光マップには両区の観光地をイラストで紹介している
T旧品川宿を訪ねて研修する品川・大田両区の観光ガイドたち=品川・大田地域観光まちづくり推進協議会提供

